

チャレンジ！！オープンガバナンス 2021 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	8-5-1	大学生・市民がスクラムを組んで取り組む「暑さ対策日本一の街」の推進	熊谷市
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	ポイントを貯めながら楽しく暑さ・熱中症対策		

（注1）地域課題タイトルは、COG2021 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	立正大学暑さ対策チーム		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3	
メンバー数（公開）	6名		
代表者（公開）	押川 秀一		
メンバー（公開）	吉田 和樹	星野 祥汰	瀧澤 拓海
			増田 智成
			高橋 のぞみ

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2021_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2021 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2021@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイザーの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認

○

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

熊谷の暑さ・熱中症対策（個人でできる取り組み）

<この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

最高気温が記録され、日本一となるほど暑い熊谷。近年では熱中症による健康被害も多発している。この暑さというのは、地球温暖化が大きく関わっており、暑さ対策と暑さによる健康被害の対策の両方を1つのアプリを利用してポイントを貯めながら楽しく行うことができないかというアイデアである。

・誰が

子供から大人まで誰でも

・いつ

主に夏。6月～10月くらい

・どこで

どこでも

・どのように

専用のアプリをダウンロードしていただき、こちらがその日の気象状況や環境に合わせた対策をそのアプリに表示し、その対策を実行することができたらアプリ内操作をしてポイントを貯める。貯めたポイントはアプリ内での商品の交換で利用できるようにする

アプリについて

- ・自作のアプリでチェックボックスに暑さ・熱中症対策を表示する。
- ・自身の判断でチェックボックスをタップしてポイントをためていく。
- ・画面表示には、リアルタイムと常時の2種類の項目を表示する
- ・リアルタイムのチェックボックスには、その日の気象状況などで制作側が判断をしてチェックボックスを追加していく。
- ・常時のチェックボックスには、気象条件には左右されない、上記のリアルタイム項目以外のチェックボックスを表示していく。

ポイントについて

- ・チェックボックスをタップしていくとポイントがたまる仕組み
- ・熱中症警戒アラート前に実行するとポイント増加
- ・労力がかかるものほど高ポイント
- ・アプリ内で対象商品などと交換

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます>

猛暑日が多い熊谷市では、様々な暑さ対策がされている。駅での冷却ミストの自動散布、学校での熱中症、AED 講習だ。それらにプラスして一人ひとりが少しでも暑さ対策を意識していけば、より自身の健康も守ることができるのではないかと考えた。そしてただ対策を行っていくのではなく、ポイント制にすることで、一石二鳥で対策をしていくことができる。

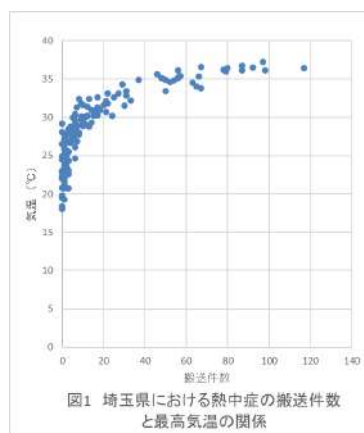


図 1.埼玉県における熱中症の搬送件数と最高気温の関係

図 1 は、2021 年 5 月～9 月の埼玉県の熱中症による搬送者数と熊谷気象台で観測した最高気温の散布図で、この図から 2 つの要素には関係があることが分かる。両者の相関係数は 0.79338 であったため、定量的に見ても関係が強いと言える。さらに、気温が 30℃以上の日は、搬送車が急増する傾向にある。気象データから最高気温 30℃を超える日は計測記録のある 153 日中 64 日であった。1 週間のうち約 3 日、熱中症の危険が高い状態であり、熱中症対策は必須であると言える。

参照：気象庁 <https://www.jma.go.jp/jma/index.html>

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

チェックボックス式の案を出すにあたって、ロバート・ザイアンスの実験を参考にした。この実験ではタスクが簡単であるほど成功率が上がるというもので、高齢者の方でも操作が複雑でないチェックボックス式にするのが良いと考えた。

また、このアプリを使って現在何人がどの熱中症対策を行っているのかを SNS、Web ページで可視化できるようにするというアイデアを出した。このアイデアは社会的促進というものを参照した。これはノーマン・トリプレットが行った実験であり、単独で行うタスクよりも、競争相手がいるタスクのほうが個人のパフォーマンスが向上する可能性が高いという実験である。

参照：【集団における個人のパフォーマンスとは】声援で大活躍する人と綱引きで休憩する人

ems.eireneuniversity.org/review/2018/12/25/social-facilitation-and-social-loafing/

・使用するデータ

- 気象庁からのその日の気象データ
- 環境省の熱中症予防対策（WBGT、熱中症警戒アラート）
- 制作側が考えた熱中症対策

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず>

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実現する主体

アプリによる自己管理で熊谷市民の健康（安全）の実現。商品交換を目指して対策を実行しポイントを溜め、商品交換が終わったらまた熱中症対策を行いポイントを溜めるという循環を期待する。

2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法

アプリ制作（プログラミング）が可能な人 2~4 人（ヒト）

アプリ開発可能なデバイス 12 万~（カネ）

アプリリリース代 年間 1 万~（カネ）

交換商品（お菓子、グッズ等） 300 円~（モノ・カネ）

3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

1 カ月~2 カ月 アプリ制作

2 カ月~3 カ月 交換商品の確保、アプリリリース